

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172101095		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム江並「福寿苑」		
所在地	岐阜県大垣市外淵4丁目9番地1		
自己評価作成日	2019年12月9日	評価結果市町村受理日	2020年2月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvosyoCd=2172101095-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	2020年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様・ご家族様共に安心して過ごして頂ける終身型の施設です。認知症があっても、最期まで「人として生きる姿」を保てるよう、『利用者様本位「できる力で生き活きと!!」』を施設理念とし、全スタッフ支援させて頂いています。特浴室を設けてあり、看護体制も確立している為、重度の方も受け入れ可能となっています。現在は介護度の高い方もみえ、活動に制限がありますが、毎月、音楽療法を行い、懐かしい歌や季節を感じられる歌に触れて頂き、少しでも楽しい時間を過ごして頂けるようにしています。また、地域の関わりとしては、自治会行事や中学校の体育大会を見学させて頂いたり、保育園児の来苑があったりし、交流できる機会を大切にしたいと考えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

職員は、利用者の出来る力を活かし、笑顔溢れる生活が送れる支援に取り組んでいる。管理者は、家族が要望など言いやすいように家族アンケートの提出先を事業所から本社に変更したり、運営推進会議の出席表を送り参加を促したりして家族の思いを多く知るための工夫をしている。質問には丁寧に答え、要望などは全職員で話し合い、サービスの向上に努めている。協力医や看護師・訪問看護ステーションとの連携を密にし、重度化や終末期の体制をとっている。機械浴があり、重度化しても入浴できるなど利用者・家族の安心に繋がっている。民生委員から独居高齢者の相談を受けたり、地域に新設の公園が出来る時に要望を聞かれたり、災害時はいつでも応援に駆け付けられるからと言われるなど、地域の一員として受け入れられている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回の全体会議の中で、全職員での理念の唱和と職員の心得の唱和をして理念の浸透を図り、日常のケアにつなげている。	全体会議で「利用者本位」のケアとなっているか、全職員が理念を振り返り話し合いをしている。一人ひとりのペースを大切にしながら、利用者の出来る力を活かす支援に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の行事や中学校の体育大会を見学させて頂いたり、地元の保育園児が来苑してもらったりし、交流を行っている。また、散歩に出かけ、地域の方とあいさつや会話をし、機会を作るよう努めている。	散歩や地域行事の参加時に挨拶や会話をしたり、保育園児やボランティアの人と歌やゲームを楽しんだりして交流している。認知症講座を開催し、中学校の職場体験の受け入れを申し出るなど、地域の一員としての役割を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に自治会長、民生委員、地域包括、市議会議員等の方に出席して頂いている。事業所の状況をお伝えし、理解と協力を得ている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の出席者から毎回、ご質問や評価を頂き、今後に活かせるよう取り組んでいる。また、地域の様子や災害についても話し合いをしている。	事業所の状況やヒヤリハット・事故などを報告して意見交換をしている。地域や行政の情報を得、アドバイスももらっている。家族からは要望や質問が出ている。要望・意見は会議で話し合い、サービスに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括、市高齢介護課と連絡を取り合えるようにしている。運営推進会議にも担当者に出席して頂き、日頃の事業所のサービス内容についても報告し、理解・協力を得ている。	事業所の空き情報や事故報告などをして、日頃から連絡を取り合っている。市主催の会議に出席し、地域マップ作成への協力や困難事例のケア方法などについて相談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについては、日々介護方法の工夫をチームで検討して取り組んでいる。また、毎年勉強会を計画・実施している。	研修や会議で身体拘束をしないケアについて再確認をしている。言葉使いや対応が気になる時は、互に注意し合っている。管理者は、何がいけなかったか考えられるような言葉での注意を心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止・ケアの質向上委員会が中心となり、身体拘束の実態調査やケアの状況についてトップマネジメント会議の場で報告をする等、安易に拘束や虐待に繋がらないよう取り組み防止に努めている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の年間予定を立て、全体会議で伝えている。また、必要に応じて制度を活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定時には説明を行い、書面にて理解・承諾を得ている。説明の際は、ご利用者や、ご家族の背景に配慮しながら対応できるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からご意見を頂けるような声かけ、雰囲気作りに努めている。また毎年、無記名のご家族アンケートを実施し口頭ではなかなか言えないご意見もいただく機会を設けている。	訪問時や運営推進会議・家族アンケートで意見や要望を聞き、会議で話し合って改善している。普段の様子をもっと知りたいという要望に、管理者以外からも家族に伝えられるようにした。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の個別面談を実施し、意見や提案を聞く機会を設けている。毎月の全体会議でも発言できる場をつくり、業務のより良い改善につなげていくよう努めている。	管理者は、日頃から言いやすい関係を築き意見や要望を聞いている。排泄や入浴・食事形態などのケアに関する提案は、すぐに検討し対応している。個別面談で勤務状況などの相談を受け働きやすいように調整している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の事情を踏まえた雇用形態や休日希望の配慮をし、働きやすい環境づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修について年間計画を立て、実施している。また、日々の自己のケアを振り返られるよう自己チェックのアンケート等を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内にある9事業所が交流できるよう職員旅行を企画され交流の機会を作ったり、お互いの事業所を視察に行ったり、トップマネジメント会議の中で管理者同士が勉強会を行う等互いにサービス向上にむけた取り組みをしている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ずご利用者と面談を行い、ご本人の困っていることや不安を傾聴し寄り添えるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前から、ご家族の不安やご要望等を伺い、ご家族の立場に立って支援が出来るよう信頼関係の構築に心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意向を伺うと共に、認知症の進行度や身体状況を踏まえた上で、必要な支援が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中でご利用者に対し感謝の言葉、自尊心を高めるような言葉がけをし、ご利用者の思いに寄り添いながら共に支えあう関係を築けるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはご利用者とご家族がゆっくり過ごして頂けるよう配慮している。また、ご家族と情報の共有を行ったり、ご利用者の意向を代弁しお伝えする等、共に支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所の把握に努め、ご家族に協力していただきながら外出して頂けるようアプローチしている。また、ご友人等の面会時にもゆっくり過ごして頂けるよう配慮している。	本人や家族から馴染みの人や場を把握している。再アセスメントを行って情報を補充することもある。同僚や友人の訪問時は、再訪をお願いしている。遠方への外出は家族の協力を得て支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が、ご利用者間の関係性を見極め、関わりを持ち、互いの距離感を調整しながら、支え合えるよう支援に努めている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、状況によっては、再入所の手続きをお勧めしたり、必要に応じて困り事など相談にのれるよう継続的な関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面談時や日頃の関わりの中で、ご利用者の思いや希望をお聞きし把握に努めている。疎通困難な方はご家族や周囲関係者の方から情報を頂き、ご利用者本位のケアに繋げている。	日々の会話や家族の話から思いや意向を把握している。友人などから聞くこともある。思いや希望を伝えやすいように話しかけ、表情や動作からも気持ちをくみとっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前担当のケアマネや、ご利用者、ご家族等からの聴き取りにて、これまでの生活歴や入所前のサービス利用状況等を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活状況をしっかり観察し、いつもと違う変化や気づきを職員間で共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中でご本人の意向、面会時にご家族の意向をお聞きした上で介護計画に反映させている。毎月の職員カンファレンスで上がった意見も反映させて作成している。	訪問時に本人・家族の要望を聞き、担当職員がモニタリングを毎月行い、カンファレンスで確認して介護計画を作成している。状態の変化時や計画がモニタリングに沿っていない時は、見直し変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた内容を介護記録に記載し、勤務交替時の申し送り等で、情報を共有しながら日々のケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じて、ご利用者・ご家族のニーズに、対応できるよう心がけている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な訪問理容の利用や地域の情報を得ながら、ボランティアの受け入れをし、ご利用者が安全に楽しんでいただける機会を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご利用者・ご家族から、かかりつけ医についての意向確認をしている。毎日、異常の早期発見に努め、体調不良があればかかりつけ医に報告し、早期対応に心がけている。	入居時に本人・家族の意向を確認して協力医に変更し、訪問診療を受けている。専門医の受診は家族が付き添い、利用者の状態を口頭かメモで伝え、報告を受けて情報を共有している。必要時は看護師が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、介護を通して異常の有無を把握し、体調の変化について看護師に報告を入れ、医療的対応が受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は入所者サマリーにて情報提供をし、治療中の生活に活かして頂き、退院時には出来る限りご利用者の心身の負担がないよう入院中の情報収集に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の段階から、重度化や終末期について、ご利用者の希望やご家族の意向について伺い、状況の変化時等、その都度意向を確認しながら、より良い方向性を導けるよう、かかりつけ医とも連携を図りながら支援している。	入居時に事業所の方針を説明して、本人・家族の意向を聞いている。状態変化に応じて家族と話し合い意向を確認して書面を交わしている。終末期は医師・看護師から家族・職員に説明してもらい方針を共有して取り組んでいる。家族が最期を一緒に過ごすこともある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会を実施したり、日頃から、各自が適切に対応できるよう、介護職間や看護師とも連携を図り、初期対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協働体制を築いている	マニュアルを活用し、年2回の避難訓練を実施している。1回目は2施設合同練習。2回目は夜間想定訓練。自治会長やご家族にも参加を呼びかけて行っている。	隣接事業所と合同で運営推進会議開催時に避難訓練を行い参加者から意見を聞いている。夜間想定訓練は単独で行っている。水害時の地域の避難所としている。自治会長から「いつでも応援に来るから」と言われている。	

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄時の声掛け・誘導は、ご利用者の傍で行い、衣服交換時はプライバシーを損ねないよう言葉かけに配慮している。	トイレはアコーディオンと布のカーテンを併用してプライバシーに配慮し、外で見守っている。尊厳を損ねるような対応があれば互に注意し合っている。一部の居室であるが、扉のガラス部分から室内が見える。	居室の扉のガラス部分について、プライバシーが確保できる工夫を望む。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者がご自分の思いや希望を伝えやすいように、話しやすい雰囲気、自己決定できるようなこえかけにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に合わせた日常を過ごして頂けるよう個々のペースを大切に、表情や動作から気持ちを汲み取るよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入所前に着て見えた服をご持参いただいたり、ご自分で通信販売で服を注文されたりして、おしゃれを楽しまれている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	時々、何を召し上がりたいかをご利用者に伺い、リクエストに応じて食事を提供し、楽しんでいただいている。	利用者の好みや体調を考慮して調理している。豆のすじ取りやテーブル拭き・下膳などを一緒に行っている。誕生日などは利用者の希望を取り入れた食事を提供したり、外食に出かけたりして楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体調不良の方にスポーツドリンクを提供したり、食種も嚥下状態や状況に応じてミキサー食やお粥等を提供し、少しでも経口摂取が出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご利用者の自立度に応じ、支援している。口腔の状態に応じて口腔ケアスポンジを使用したり、柔毛ブラシを使用する等工夫しながら口腔内の保清に努めている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録にある排泄の記録を参考にし、ご利用者の排泄パターンを把握している。トイレ誘導時には安全に配慮し、自立に向けた支援をしている。	排泄パターンを参考に、行動や表情を見てトイレに誘導している。2人介助で支援することもあり、自立した利用者には、扉の閉め忘れをフォローして見守りをしている。夜間も時間を見計らいトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日乳製品の提供や状況に応じて、バナナやヨーグルト等を摂取していただいている。また、入浴時には腹部マッサージを行いできるだけ自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	午前中に、午後から入浴があることをお伝えし、慌てずご自身で着替えの服等を選び、用意できるよう支援している。	体調を見ながらゆっくり入浴してもらい、入浴剤を入れるなどして楽しめるようにしている。嫌がる人には、足浴や清拭から始めて入浴出来るように支援している。機械浴があり重度化しても入浴できる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や体調に合わせ、室内の温度設定等心地よく眠れる環境づくりをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が閲覧できるよう、効能・用法等が詳しく書いたファイルが設置してある。飲み忘れや落葉がないよう飲み込みまでをしっかり確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員とご利用者と一緒に新聞折りをしたり、洗濯物を畳んで頂き、会話も交えながら、楽しんで役割活動をいただけたらというように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者の体調に考慮しながら、近所の学校に運動会を観に行ったり、寿司屋さんへ行ったりして喜んで頂けるよう努めている。	気候の良いときは車いすの人と一緒に近所を散歩している。ベランダで野菜作りをしたり、買物や近くの神社に初詣に出かけたりしているが、利用者のその日の希望にそった外出や遠出など季節を楽しむ外出が少ない。	利用者の希望にそった外出や普段いけない場所へ、家族や地域の人などと協力しながら出かけられる支援を期待する。

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族との話し合いの中で、ご利用者の思いを尊重し、対応している。ご利用者の要望があった際は、職員と一緒に買い物に出かけることもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書かれる方は少ないが、電話で会話ができる方は取り次ぎをしたりして行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	移動に支障がないよう障害物の排除をし、トイレには消臭剤を設置する等不快な思いをさせないような空間づくりに努めている。また、季節のイベントや飾りつけをする等、季節を感じられるようにしている。	ベランダに洗濯物を干したり、季節ごとの飾りをしたりして、生活感や季節感を採り入れている。加湿器を置き湿度に気を配っている。窓際で日向ぼっこをしながらお茶を飲んだり、新聞を読んだりして楽しく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファやイスを用意し、気の合う方と歓談したり、交流できるようにしている。落ち着いて過ごして頂ける席の配置にも心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際に、使い慣れたものや大切にされていたものを持参していただけるよう説明し、テレビや家族写真を飾られたり、ご希望があれば畳を入れて、ゆったりと過ごしていただくことができるようにしている。	テレビや椅子など使い慣れた物を持ち込み、家族写真や遺影などを置いている。利用者が使いやすいようにベットを配置している。利用者の力量に応じて一緒に掃除をしている。和室希望には畳を敷いて対応している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の持ってみえる「できる力」に応じ、自立に向けた環境づくりに努めている。障害になる物は撤去し、安全な環境づくりに努めている。車いすをご利用されておられる方も移動しやすいように配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2172101095		
法人名	株式会社 共寿		
事業所名	グループホーム江並「福寿苑」		
所在地	岐阜県大垣市外淵4丁目101番地		
自己評価作成日	2019年12月9日	評価結果市町村受理日	2020年2月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyoSoCd=2172101095-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	2020年1月21日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	月1回の全体会議の中で、全職員での理念の唱和と職員の心得の唱和をして理念の浸透を図り、日常のケアにつなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は散歩をして、地域へ出かけることもあり、地域の方と触れ合う機会をつくっている。また、地域のボランティアの方に来ていただき、交流の場を作っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に自治会長、民生委員、地域包括、市議会議員等の方に出席して頂いている。事業所の状況をお伝えし、理解と協力を得ている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の出席者から毎回、ご質問や評価を頂き、今後活かせるよう取り組んでいる。また、地域の様子や災害についても話し合いをしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括、市高齢介護課と連絡を取り合えるようにしている。運営推進会議にも担当者に出席して頂き、日頃の事業所のサービス内容についても報告し、理解・協力を得ている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアについては、日々介護方法の工夫をチームで検討して取り組んでいる。また、毎年勉強会を計画・実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止・ケアの質向上委員会が中心となり、身体拘束の実態調査やケアの状況についてトップマネジメント会議の場で報告をする等、安易に拘束や虐待に繋がらないよう取り組み防止に努めている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の年間予定を立て、全体会議で伝えている。また、必要に応じて制度を活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定時には説明を行い、書面にて理解・承諾を得ている。説明の際は、ご利用者や、ご家族の背景に配慮しながら対応できるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からご意見を頂けるような声かけ、雰囲気作りに努めている。また毎年、無記名のご家族アンケートを実施し口頭ではなかなか言えないご意見もいただく機会を設けている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の個別面談を実施し、意見や提案を聞く機会を設けている。毎月の全体会議でも発言できる場をつくり、業務のより良い改善につなげていくよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の事情を踏まえた雇用形態や休日希望の配慮をし、働きやすい環境づくりに努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修について年間計画を立て、実施している。また、日々の自己のケアを振り返られるよう自己チェックのアンケート等を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内にある9事業所が交流できるよう職員旅行を企画され交流の機会を作ったり、お互いの事業所を視察に行ったり、トップマネジメント会議の中で管理者同士が勉強会を行う等互いにサービス向上にむけた取り組みをしている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前には必ずご利用者と面談を行い、ご本人の困っていることや不安を傾聴し寄り添えるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前から、ご家族の不安やご要望等を伺い、ご家族の立場に立って支援が出来るよう信頼関係の構築に心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族の意向を伺うと共に、認知症の進行度や身体状況を踏まえた上で、必要な支援が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中でご利用者に対し感謝の言葉、自尊心を高めるような言葉がけをし、ご利用者の思いに寄り添いながら共に支えあう関係を築けるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時にはご利用者とご家族がゆっくり過ごして頂けるよう配慮している。また、ご家族と情報の共有を行ったり、ご利用者の意向を代弁しお伝えする等、共に支えていく関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所の把握に努め、ご家族に協力していただきながら外出して頂けるようアプローチしている。また、ご友人等の面会時にもゆっくり過ごして頂けるよう配慮している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が、ご利用者間の関係性を見極め、関わりを持ち、互いの距離感を調整しながら、支え合えるよう支援に努めている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も、状況によっては、再入所の手続きをお勧めしたり、必要に応じて困り事など相談にのれるよう継続的な関係づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	面談時や日頃の関わりの中で、ご利用者の思いや希望をお聞きし把握に努めている。疎通困難な方はご家族や周囲関係者の方から情報を頂き、ご利用者本位のケアに繋げている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前担当のケアマネや、ご利用者、ご家族等からの聴き取りにて、これまでの生活歴や入所前のサービス利用状況等を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活状況をしっかり観察し、いつもと違う変化や気づきを職員間で共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃の関わりの中でご本人の意向、面会時にご家族の意向をお聞きした上で介護計画に反映させている。毎月の職員カンファレンスで上がった意見も反映させて作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいた内容を介護記録に記載し、勤務交替時の申し送り等で、情報を共有しながら日々のケアに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じて、ご利用者・ご家族のニーズに、対応できるよう心がけている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的な訪問理容の利用や地域の情報を得ながら、ボランティアの受け入れをし、ご利用者が安全に楽しんでいただける機会を作っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にご利用者・ご家族から、かかりつけ医についての意向確認をしている。毎日、異常の早期発見に努め、体調不良があればかかりつけ医に報告し、早期対応に心がけている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、介護を通して異常の有無を把握し、体調の変化について看護師に報告を入れ、医療的対応が受けられるように努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は入所者サマリーにて情報提供をし、治療中の生活に活かして頂き、退院時には出来る限りご利用者の心身の負担がないよう入院中の情報収集に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所の段階から、重度化や終末期について、ご利用者の希望やご家族の意向について伺い、状況の変化時等、その都度意向を確認しながら、より良い方向性を導けるよう、かかりつけ医とも連携を図りながら支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会を実施したり、日頃から、各自が適切に対応できるよう、介護職間や看護師とも連携を図り、初期対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを活用し、年2回の避難訓練を実施している。1回目は2施設合同練習。2回目は夜間想定訓練。自治会長やご家族にも参加を呼びかけて行っている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者の居室へ入るときはノックをし、リビングにおみえになるときは一言お声をかけ、訪室している。トイレや入浴時はカーテンや扉を閉め、汚染された場合、声掛けにも配慮している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	些細なことでもご本人様にどうしたらよいのかお聞きし、少しでもかかわりを持ち、話していただけるような関係づくりに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室やリビング、お好きな場所で過ごしていただいている。表情やご様子からお疲れのようであれば、居室へ誘導するなどの対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方が着心地よく着用していただけるように支援させて頂いている。ご自分で整髪や髭剃りが出来る方は、出来るだけご自分で行って頂くようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	身体状況に合わせて食事形態を考え、季節に合わせたメニューを提供し、楽しんで食べて頂いている。準備・片付けも一部お手伝いして頂いている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの状態に応じて、食べれる量・水分量が確保できるよう、日々考えながら提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で行える方は、その都度声をかけ、口腔ケアを行っていただき、ご自分で困難な方は、その方に合ったケア方法で介助し、清潔を保てるように支援している。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員間の申し送りや排泄記録を参考にし、その方の排泄パターンを把握する。表情やしぐさ等を見てトイレに誘導したり、オムツ交換を行ったりしている。また、排泄行為をせかさないう、便座に座る時間等に配慮している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ご利用者の状況に応じて、バナナやヨーグルトを提供したり、水分を積極的に摂って頂く。入浴時に腹部マッサージの施行。適度な運動等、自然排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	気持ちよく入って頂けるように、その日の健康状態に合わせ、一般浴か寝台浴が良いかを選択し対応できるよう心掛けている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方の生活習慣やその日の体調に合わせて、日中ゆっくり休息できるように心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ご利用者が服用されている薬の情報ファイルに目を通したり、確実に服薬していただくために、飲み忘れがないか、しっかり飲み込めてかを確認しながら支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物をたたんでいただいたり、新聞を折ってもらったりと、その方のできることで役割を持っていただいている。レクリエーションへの参加を促している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や地域のイベント、また季節を感じていただけるような、お花見や中学校の体育大会見学に出かけている。		

グループホーム江並「福寿苑」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に関しては、ご利用者から要望があった場合に、気分転換を兼ねて職員と一緒に買い物に行くこともある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	認知症の進行に伴い、文章を書かれる事が困難な方が多い。電話をしたいと希望させる時は、取り次ぎ、お話できるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	安全に移動できるよう障害物になるようなものは置かないようにしている。季節が感じられるよう、危険のないよう配慮し、飾りつけをしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングはテレビやソファを設置している。テーブル席の配置等は、ご利用者が落ち着いて生活していただけるように心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所される前に使ってみえたものや思い出のものを持ってきていただけるようにお話をし、ご自身の落ち着かれるような配置を考えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活しやすいように物の配置や危険性のあるものは置かないなど、安全に安心して過ごしていただけるよう、日々工夫をしている。		